

# 乳がん高度検診・治療センター NEW一す NO.11

2014.10

## 本年、最新マンモグラフィ装置導入!

今や多くの方がご存知ですがマンモグラフィとは乳房専用のレントゲン撮影のことで若年者を除き乳がんの検診や診断には欠かせない検査です。

マンモグラフィではしこりの影や石灰化(カルシウムの沈着)などが確認できます。こうした所見だけでがんと診断されることも少なくありませんが、多くの場合は視触診、超音波検査(エコー検査)、穿刺吸引細胞診などと組み合わせて総合的に診断が下されます。

さて、マンモグラフィ自体100年ほど前に考案され、乳がん診断に広く用いられるようになってからもすでに約50年の歴史があります\*が、今なお次々と改良が重ねられています。当院におきましても本年3月に最新式の装置に更新されましたので、新機種について解説を加えます。

今回購入のマンモグラフィ装置はデジタル方式で最も精細な画像が得られる平面検出器(フラットパネル)搭載撮影装置です。

このマンモグラフィ装置には、乳房の断層像を生成する最先端技術「トモシンセシス機能」があります。乳房内部の構造を断層像として観察することにより、従来のマンモグラフィによる撮影では乳腺の重なりが原因で検出が困難であった病変も観察しやすくなり、より精度の高い診断が可能となりました。

ところでマンモグラフィという痛い検査というイメージが定着しているようです。たしかに乳房をできるだけ引き出して、アクリル製の薄い圧迫板で乳房を挟み込み撮影しますので多少の痛みをとまなうことがあります。ただ、押し広げることにより診断がしやすくなり、また放射線被曝量も減らすことができます。4cm前後の乳房の厚さなら1cm減らすことにより被曝線量が約半分になるとされています。

\* 乳がんのレントゲン診断の歴史は1913年ドイツの外科医ザロモンが摘出した乳がん手術標本のレントゲン撮影でその広がり具合を調べたのがその始まりとされています。しかしその後、実際に人体で乳がん診断に供され、その有用性が確認されるには約半世紀の長い道のりが必要でした。



KAZUKA

詳細は乳がん高度検診・治療センターにお問い合わせください。

市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865

